

## 安全データシート

### 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : ヘキシチアゾックス

SDS コード : R9-05

供給者の会社名称 :

林純薬工業株式会社

住所 : 大阪府大阪市中央区内平野町 3 丁目 2 番 12 号

担当部門 : 試薬化成部品 企画グループ

電話番号 : 06-6910-7305

E-mail : shiyaku\_kikaku@hpc-j.co.jp

URL : <https://www.hpc-j.co.jp/>

緊急連絡電話番号 : 06-6910-7305

### 2. 危険有害性の要約

#### GHS 分類

物理的危険性	鈍性化爆発物	分類できない	
	爆発物	区分に該当しない	
	可燃性ガス	区分に該当しない	
	エアゾール	区分に該当しない	
	酸化性ガス	区分に該当しない	
	高圧ガス	区分に該当しない	
	引火性液体	区分に該当しない	
	可燃性固体	分類できない	
	自己反応性化学品	区分に該当しない	
	自然発火性液体	区分に該当しない	
	自然発火性固体	分類できない	
	自己発熱性化学品	分類できない	
	水反応可燃性化学品	区分に該当しない	
	酸化性液体	区分に該当しない	
	酸化性固体	区分に該当しない	
	有機過酸化物	区分に該当しない	
	金属腐食性化学品	分類できない	
	健康有害性	急性毒性 (経口)	区分に該当しない
		急性毒性 (経皮)	区分に該当しない
		急性毒性 (吸入: 気体)	区分に該当しない
急性毒性 (吸入: 蒸気)		区分に該当しない	
急性毒性 (吸入: 粉じん、ミスト)		分類できない	
皮膚腐食性/刺激性		区分に該当しない	
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性		区分 2B	
呼吸器感作性		分類できない	
皮膚感作性		区分に該当しない	
生殖細胞変異原性		区分に該当しない	
発がん性		区分に該当しない	
生殖毒性		区分に該当しない	
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	分類できない		

環境有害性	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	分類できない
	誤えん有害性	分類できない
	水生環境有害性 短期(急性)	区分 1
	水生環境有害性 長期(慢性)	区分 1
	オゾン層への有害性	分類できない

絵表示  
(GHS JP)



GHS09

注意喚起語 (GHS JP) : 警告  
 危険有害性 (GHS JP) : 眼刺激 (H320)  
 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性 (H410)

注意書き (GHS JP)

安全対策 : 取扱い後は手、前腕および顔をよく洗うこと。(P264)  
 環境への放出を避けること。(P273)  
 応急措置 : 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用してい  
 て容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)  
 眼の刺激が続く場合: 医師の診察/手当てを受けること。(P337+P313)  
 漏出物を回収すること。(P391)  
 廃棄 : 内容物/容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。  
 (P501)

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 化学物質

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS RN
			化審法番号	安衛法番号	
ヘキシチアゾックス	≥95%	C17H21ClN2O2S	(5)-5743	8-(7)-795	78587-05-0

上記濃度又は濃度範囲は、規格値ではありません。

上記濃度又は濃度範囲に記載の%は、個別表記があるものを除き、全て質量%となります。

### 4. 応急措置

#### 応急措置

吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
 直ちに医師に診断/手当てを受けること。  
 皮膚に付着した場合 : 汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。  
 多量の水と石鹼で優しく洗うこと。  
 直ちに医師に診断/手当てを受けること。  
 眼に入った場合 : 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用してい  
 て容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
 直ちに医師に診断/手当てを受けること。  
 飲み込んだ場合 : 口をすすぐこと。  
 直ちに医師に診断/手当てを受けること。

## 5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 水噴霧、泡消火剤、乾燥粉末消火剤、二酸化炭素、砂
- 使ってはならない消火剤 : 強い水流は使用しない。
- 爆発の危険 : 加熱により、容器が爆発するおそれがある。
- 火災時の危険有害性分解生成物 : 火災時に刺激性もしくは有毒なフュームまたはガスを発生する。
- 消火方法 : 着火した場合、初期消火は、火元(燃焼源)を断ち、適切な消火剤を用いて一挙に消火する。  
周辺火災の場合、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。  
移動不可能な場合、容器及び周囲の設備等に散水し、冷却する。  
消火に使用した水が環境中に流出しないようにする。  
消火後も大量の水を用いて容器を冷却する。
- 消火時の保護具 : 消火作業の際は、空気呼吸器を含め防護服(耐熱性)を着用する。

## 6. 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

- 一般的措置 : 立ち入る前に、密閉された場所を換気する。  
関係者以外の立ち入りを禁止する。  
直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。  
作業の際には、吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、必ず適切な保護具を着用し、風下で作業行わない。

### 環境に対する注意事項

- 環境に対する注意事項 : 環境への放出を避けること。  
下水道や公共用水域への侵入を防ぐ。

### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

- 浄化方法 : 粉塵を発生させないように注意し、できるだけ掃き集めて密閉できる空容器に回収し、安全な場所に移動する。  
回収跡は多量の水で洗い流す。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

- 技術的対策 : 吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用して作業する。  
漏れ、あふれ、飛散しないように取扱い、ミスト、蒸気の発生を少なくし、換気を十分にする。

- 安全取扱注意事項 : この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。  
取扱い後はよく手を洗いうがいをする事。  
作業所の十分な換気を確保する。  
接触、吸入又は飲み込まないこと。

- 接触回避 : 長時間または反復の暴露を避ける。

### 保管

- 安全な保管条件 : 施錠して保管すること。  
直射日光を避け、換気の良い場所に保管する。容器を密閉し、火気、熱源より遠ざける。
- 安全な容器包装材料 : 遮光した気密容器。
- 技術的対策 : 適用法令を遵守する。
- 保管温度 : 冷蔵保管 : 2~10°C

## 8. ばく露防止及び保護措置

設備対策 : 取扱場所での発生源の密閉化、または局所排気装置、全体換気装置の設置。取扱い場所の近くに安全シャワー、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

### 保護具

皮膚及び身体の保護具 : 保護服、保護長靴、保護前掛け  
 眼の保護具 : 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)  
 手の保護具 : 保護手袋  
 呼吸用保護具 : 防塵マスク

## 9. 物理的及び化学的性質

物理状態 : 固体  
 外観 : 結晶  
 色 : 白色  
 臭い : 無臭  
 pH : データなし  
 融点 : 105.4 ° C  
 凝固点 : データなし  
 沸点 : データなし  
 引火点 : データなし  
 自然発火点 : データなし  
 分解温度 : データなし  
 可燃性 : データなし  
 蒸気圧 : 267-401 × 10<sup>-8</sup> Pa (20°C)  
 相対密度 : データなし  
 密度 : 1.3 g/cm<sup>3</sup> (20°C)  
 相対ガス密度 : データなし  
 溶解度 : 水: 410 μg/l (20°C)  
 n-オクタノール/水分配係数(Log Pow) : 2.74 (25°C)  
 爆発限界 (vol %) : データなし  
 動粘性率 : データなし  
 粒子特性 : データなし

## 10. 安定性及び反応性

反応性 : データなし  
 化学的安定性 : 通常の実験条件では安定である。  
 危険有害反応可能性 : 強酸化剤と接触すると発火するおそれがある。  
 避けるべき条件 : 日光、熱。強酸化剤との接触。  
 混触危険物質 : 強酸化剤  
 危険有害な分解生成物 : 窒素酸化物、硫酸酸化物、塩素、塩素化合物

## 11. 有害性情報

ヘキシチアゾックス	
急性毒性(経口)	ラットの LD50 値が > 5000 mg/kg bw (JMPR (1991))より、区分外とした。
急性毒性(経皮)	ラットの LD50 値が > 5000 mg/kg bw (JMPR (1991))より、区分外とした。
急性毒性(吸入:気体)	GHS の定義における固体である。
急性毒性(吸入:蒸気)	データなし。
急性毒性(吸入:粉末)	ラットの LC50 値 > 2.0 mg/kg bw/4h (JMPR (1991))は区分 3~区分外であることから分類できないとした。なお、被験物質の飽和蒸気圧濃度は 2.90E-004 mg/L であり、試験濃度 > 2.0 mg/L は飽和蒸気圧濃度を超える値であるから、粉塵と判断した。

ヘキシチアゾックス	
急性毒性(吸入:ミスト)	データなし
皮膚腐食性/刺激性	ウサギを用いた試験で、4時間の適用で72時間まで皮膚刺激は観察されなかった(JMPR(1991))とあり、区分外とした。
眼に対する重篤な損傷又は刺激性	ウサギを用いた試験で、軽度の刺激性を引き起こし、適用後48時間で刺激性影響は観察されなかった(JMPR(1991))ことから可逆的であると判断し、区分2Bとした。
呼吸器感受性	データなし。
皮膚感受性	モルモットを用いた試験(maximization test)で感受性を示さず(JMPR(1991))、他のモルモットを用いた試験でも感受性を示さなかった(農薬安全情報(農薬時代154号1999))ことから、区分外とした。
生殖細胞変異原性	経口投与によるマウスの骨髄細胞を用いた小核試験およびチャイニーズハムスターの骨髄細胞を用いた染色体異常試験(いずれも体細胞 in vivo 変異原性試験)の陰性結果(JMPR(1991))に基づき区分外とした。なお、エームス試験(in vitro 変異原性試験)では、陰性(JMPR(1991))、CHO培養細胞を用いた染色体異常試験は陰性である(農薬安全情報(食品衛生研究 Vol. 149 1999))。
発がん性	ラットを用いた104週間の経口(混餌)投与試験で、腫瘍発生率は上昇しなかった(JMPR(1991))とあり。一方、マウスを用いた104週間の経口(混餌)投与試験で、研究終了後、増殖型の肝細胞からなる過形成リンパ節の発生率は雄、雌両方で上昇し(発生率(52+104週60匹のラット)肝細胞性腺腫又はがん腫の発生率の増加も観察されている(JMPR(1991))。これらの結果からUS-EPAはカテゴリーCとしていることより区分外とした。
生殖毒性	妊娠ラット及び妊娠ウサギの器官形成期に経口投与した試験で、母動物の総着床数、黄体数、生存胎仔数、死亡または吸収胚数の変化は認められなかった(農薬安全情報(農薬時代154号1999))とあり、胎仔では性別、外表異常、骨格異常、内臓異常について投与による変化は認められていない(農薬安全情報(農薬時代154号1999))。ラットに2160 mg/kg/day、ウサギに1080 mg/kg/dayの用量を投与しても胎仔に催奇形性は認められなかった(JMPR(1991)、農薬安全情報(農薬時代154号1999))とある。また、ラットの経口投与による二世世代繁殖試験で親世代の交尾率、妊娠率、出産率、出産仔数などの繁殖に関して何ら影響は認められなかった(農薬安全情報(農薬時代154号1999))とあり、仔世代の新生仔生存率、発育分化においても投与による変化は認められず(農薬安全情報(農薬時代154号1999))、繁殖阻害作用及び催奇形性はないと判断されている(JMPR(1991)、農薬安全情報(農薬時代154号1999))。以上の結果から区分外とした。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	データなし。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ラットを用いた13週間の経口(混餌)投与試験で、ガイダンスの区分2に相当する500ppm(25mg/kg)の用量以上で血液学的パラメータの変化と生化学値の変化、中心帯の肝細胞の腫張がガイダンスの区分2を超える3500ppm(175 mg/kg)で雄・雌両方に観察され、副腎皮質の束状帯の脂肪変性がガイダンスの区分2に相当する500ppm(25 mg/kg)で雄・雌両方に観察されている(JMPR(1991)、IRIS(2002)、農薬安全情報(農薬時代154号1999))。また、脳及び赤血球コリンエステラーゼ(ChE)に異常はなかったが、500と3500ppmで雌の血漿コリンエステラーゼの減少が見られている(IRIS(2002)、農薬安全情報(農薬時代154号1999))。マウスの28日間の経口(混餌)投与試験において、肝細胞腫大が雄の1800ppm(90日換算値:90mg/kg)以上と雌の10800ppm(90日換算:540mg/kg)で観察されている(JMPR(1991))、農薬安全情報(農薬時代154号1999))。肝臓における肝細胞の腫張変化と副腎皮質における束状帯の脂肪変性以外に顕著な影響は見られないが、区分外にするには他に情報がなく分類できないとした。
誤えん有害性	データなし。

## 12. 環境影響情報

ヘキシチアゾックス	
水生環境有害性 短期(急性)	魚類(ブルーギル)の96時間LC50=0.53mg/L(ECOTOX, 2008)から区分1とした。
水生環境有害性 長期(慢性)	急性毒性区分1であり、急速分解性がない(SRC: BioWin V4.10)ことから区分1とした。
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし

ヘキシチアゾックス	
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

### 13. 廃棄上の注意

- 化学品(残余廃棄物) : 都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に、内容を明示して処理を委託する。
- 汚染容器及び包装 : 容器の内容物を完全に除去してから廃棄する。  
空容器は地域の条例に準拠してリサイクル、再利用または廃棄する必要がある。

### 14. 輸送上の注意

#### 国際規制

##### 海上輸送(IMDG)

- 国連番号 (IMDG) : 3077
- 正式品名 (IMDG) : ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, SOLID, N.O.S.
- 容器等級(IMDG) : III
- 輸送危険物分類 (IMDG) : 9
- 危険物ラベル (IMDG) : 9
- クラス(IMDG) : 9
- 特別規定 (IMDG) : 274、335、966、967、969
- 少量危険物(IMDG) : 5 kg
- 微量危険物(IMDG) : E1
- 包装要件(IMDG) : LP02、P002
- 特別包装規定 (IMDG) : PP12
- IBC 包装要件(IMDG) : IBC08
- IBC 特別規定(IMDG) : B3
- ポータブルタンク包装規定 (IMDG) : BK1、BK2、BK3、T1
- 輸送特別規定-タンク(IMDG) : TP33
- 積載区分 (IMDG) : A
- 緊急時応急措置指針番号 : 171

##### 航空輸送(IATA)

- 国連番号 (IATA) : 3077
- 正式品名 (IATA) : Environmentally hazardous substance, solid, n.o.s.
- 容器等級 (IATA) : III
- 輸送危険物分類 (IATA) : 9
- 危険物ラベル (IATA) : 9
- クラス (IATA) : 9
- PCA 微量危険物(IATA) : E1
- 特別管制区(PCA)少量危険物(IATA) : Y956
- 特別管制区(PCA)数量限定物の最大積載量(IATA) : 30kgG
- PCA 包装要件(IATA) : 956
- 特別管制区(PCA)最大積載量(IATA) : 400kg
- CAO 包装要件(IATA) : 956
- 貨物機専用(CAO)最大積載量 (IATA) : 400kg
- 特別規定(IATA) : A97、A158、A179、A197、A215
- ERGコード (IATA) : 9L

海洋汚染物質 : 該当

#### 国内規制

- 海上規制情報 : 船舶安全法の規定に従う。
- 航空規制情報 : 航空法の規定に従う。
- 緊急時応急措置指針番号 : 171
- 特別な輸送上の注意 : 運搬に際しては、容器の転倒、損傷、落下、荷崩れ等しないように積み込み、漏出のないことを確認する。

## 15. 適用法令

### 国内法令

労働安全衛生法	: 非該当
毒物及び劇物取締法	: 非該当
消防法	: 非該当
外国為替及び外国貿易法	: 輸出貿易管理令別表第1の16の項
船舶安全法	: 有害性物質(危規則第2, 3条危険物告示別表第1)
航空法	: その他の有害物質(施行規則第194条危険物告示別表第1)
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	: 第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1) (4RS, 5RS)-5-(4-クロロフェニル)-N-シクロヘキシル-4-メチル -2-オキソ-1, 3-チアゾリジン-3-カルボキサミド(政令番号: 116) (95%以上)

## 16. その他の情報

参考文献	: 17221の化学商品(化学工業日報社) 国際化学物質安全性カード(ICSC) 独立行政法人 製品評価技術基盤機構(NITE) ERG2016版 緊急時応急措置指針(日本規格協会)
その他の情報	: このSDSは林純薬工業株式会社の著作物です。当該製品の化学物質製品を取り扱う事業者に対して提供するものであり、安全を保証するものではありません。現時点における該当化学物質の情報を全て検証しているわけではありません。当該化学物質について常に未知の危険性が存在するという認識で、製品運搬・開封から廃棄に至るまで、安全を最優先して使用者自己の責任においてご使用下さい。当該化学物質を使用する際は、使用者自ら安全情報を収集すると共に使用される場所・機関・国などの、法規制等については使用者自ら調査し最優先させてください。国または地方の規制についての調査は、当社としては行いかねますので、この問題については使用者の責任で処理願います。当該物質の日本語によるSDSと他国言語にて翻訳されたSDSが存在する場合、内容の相違があるなしに関わらず日本語で記述された文書が優先され他国言語による文書は参考文書とします。